

## 河口無線アナログ・MQA 試聴報告(2019.8.17)

河口無線では、ゴールデンウィーク、お盆休み、年末年始の休日などに合わせてオーディオ三昧という催しを行っています。本年も夏のオーディオ三昧が開催されていますが、これに合わせて、アナログと MQA-CD の試聴の機会を持つことにしました。きっかけはワーナーミュージックからハイレゾ CD 名盤コレクションが発売を機に MQA-CD とアナログの比較試聴を行いたいと思ったからです。

<https://wmg.jp/feature/mqa/1/>

せっかくの機会ですから、アナログに造詣に深いオーディオ仲間や MQA に関心のあ  
るオーディオ仲間にもご参集いただきました。

### <試聴システム>

#### MQA-CD 試聴

MQA-CD については、せっかくの機会ですから、メリディアンの最上級 DAC である Ultra DAC を河口無線に借用していただくことにしました。



Ultra DAC の解説は下記にあります。

<https://www.hires-music.jp/products/ultra/>

<https://www.hires-music.jp/products/ultra/%E3%83%86%E3%82%AF%E3%83%8E%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%83%BC/>

Ultra DAC の操作については、[河口無線夏のオーディオ三昧報告\(2019.8.11\)](#)の報告のとおり、前もって習得しています。

試聴した MQA-CD については、詳細をオーディオ資料室の [WM MQA-CD](#) に掲載しています。

デジタルプレイヤー：エソテリック K-03XS

クロックジェネレーター：タスカム **CG-1000**

DA コンバーター：メリディアン Ultra DAC

アンプ：ラックスマンプリアンプ C-900u

ラックスマンパワーアンプ M-900u

スピーカー：クアドラル TITAN-9

アナログ試聴は、河口無線保有機器、ならびに借用可能なものの中から下記を選定してもらいました。

カートリッジ：Ortofon MC Anna (Boron カンチレバー)

仕様はオルトフォンのサイトに記載されています。

[https://www.ortofon.jp/upload/Product/files/file1\\_167\\_5d313252-cbd0-4bb2-8a90-1cea997a0dc7.pdf](https://www.ortofon.jp/upload/Product/files/file1_167_5d313252-cbd0-4bb2-8a90-1cea997a0dc7.pdf)

比較対象として、既にお馴染みの MySonic Signature Platinum も準備されていました。



トランス：My Sonic Stage 302

フォノイコライザー：ラックスマン EQ-500

プレイヤー：ラックスマン PD-171A

アンプ：ラックスマンプリアンプ C-900u

ラックスマンパワーアンプ M-900u

スピーカー：クアドラル TITAN-9

試聴したアナログ盤は、マスター音源が MQA-CD に対応したものです。



当日のセッティング

<試聴の経過>

最初に Ultra DAC のフィルター特性の DSP の 3 段階 (Long/Medium/Short) について、切り替えしながら意見を聞いたところ、Medium が無難という意見があったので、以後はこれに固定しました。

M 氏の進行で、今回のメインの試聴対象のクラシックの MQA-CD とアナログを交互に MC Anna で聴いていきましたが、ともにグレードの高い音ながら、すこしクールで冷めたところがあり、コンサートホールの熱気にはほど遠いものでした。おそらくスピーカーの個性も含めたシステムの全般的な特徴と思われる。アナログフアンが多いので、軍配はアナログに上がりましたが、針飛びが起こったりして不安定なところがあって、本来の MC Anna のポテンシャルがいきっていないようでした。カートリッジを Signature Platinum に替えても同様でしたが、2 種のカートリッジでは聴きなれた、低インピーダンス、高出力の Signature Platinum の方が、クールで冷めたところを幾分払しょくするところがありました。

今回、初参加の SN 氏が MQA-CD にご関心があるとのことで、Jazz 音源について持参した MQA-CD と通常 CD の聴き比べを行いました。全員 MQA-CD のメリットは認めたものの、高価な機器の投資に見合うかどうかは判断に苦しむところです。

ついで、オーディオアクセサリ誌 173 号(2019 Summer) の付録の MQA 聴き比べ CD から 44.1KHzCD、44.1KHzMQA、88.2KHzMQA の 3 つのフォーマットを聴いてみましたが、違いははっきりと分かるという感想があるものの、このような音楽ジャンルで MQA の真価云々は評価しがたいという意見もありました。



最後に、O 氏持参のワグナーのアナログ盤を聴き始めましたが、再生が不安定なところもあって打ち切りとなりました。

#### <まとめ>

アナログについては調整不良のところもあり、真価を確認できたとは言えませんが、アナログと MQA-CD の比較、MQA-CD と通常 CD の比較は一応可能であったといえます。

現在の市販 MQA-CD については、音源自体が複雑なリマスターの繰り返しをしてい

ますので、これまた真価を評価しきれていないところがあります。オーディオアクセサリ誌 173 号(2019 Summer) の付録のような新規のものが増え、さらに MQA 対応機器が増えて技術が成熟してくれば、明確な結論が下せるものと期待されます。

以上